特 1
3250

国立国会図書館　タイトル『日光山図巻』 請求記号 特1-3280

国立国会図書館　　タイトル『日光山図巻』　請求記号 特1-3280

日光山図巻

下

特 1
3280

国立国会図書館　　タイトル『日光山図巻』　請求記号 特1-3280

国立国会図書館　タイトル『日光山図巻』 請求記号 特1-3280

虹瀧

白井氏蔵書

国立国会図書館　タイトル『日光山図巻』 請求記号 特1-3280

虹瀧

夕日此赤壁ヘ映シ瀧ヘウツリ返シテ虹ノ形ヲナス案内者申タリ

国立国会図書館　タイトル『日光山図巻』 請求記号 特1-3280

深澤の登り口より一二町約て地蔵堂あり夫より峻
路を凌ぎ登る事急にして爰を虹滝と云あり是を
いふるに細き滝こ高き所より落ち山間真東の
方へ透て旭此滝を映し虹の如き形をなすなり又
夕日後の赤壁を映し虹の如くなるよりて
名とるよし案内の者中き猫上りて中の茶屋
といふて少し休む此辺山間をきり開き多き百姓家
の平坦也赤土にて一丁程の草なく泥濘を
以て違るゆへ一茶屋に酒食もあり暫く息を
いるも奇観こ堪ず向ひ峻山夫峰碧巒を重ね風岩タンゼイ
休めり山針こ聳後ハ樹木森沈こして頭上を覆ひ実に
深山の形勢この梅雨の頃より又峻を坂路を凌て
劔の峰こ云爰こ登り山間の少平なる七八百斗りの
桟道を架り云云三瀑布を望般若瀧方等瀧阿舎瀑布
こ云三瀑布を望般若瀧方等瀧阿舎瀑布
斗らまた悔も四五尺こして水勢も強し方等を凡
六七町もあるべし般若より伍く悔も狭し此二瀑布ハ
名勢曲折して見愛る阿舎を十町斗もるべし
本のごとく垂下こして元来こゝこて高さ百丈ハ
前の二瀑布こ違ひさまて甚愛る事なし又
登り不動堂こ着爰こ坂路甚絶頂や登
着樹生茂こして眺望更こなく愛こ又一町
ほこりて大平こ出愛こ歩る平
なる地こて更て深山こ在家ハまれ

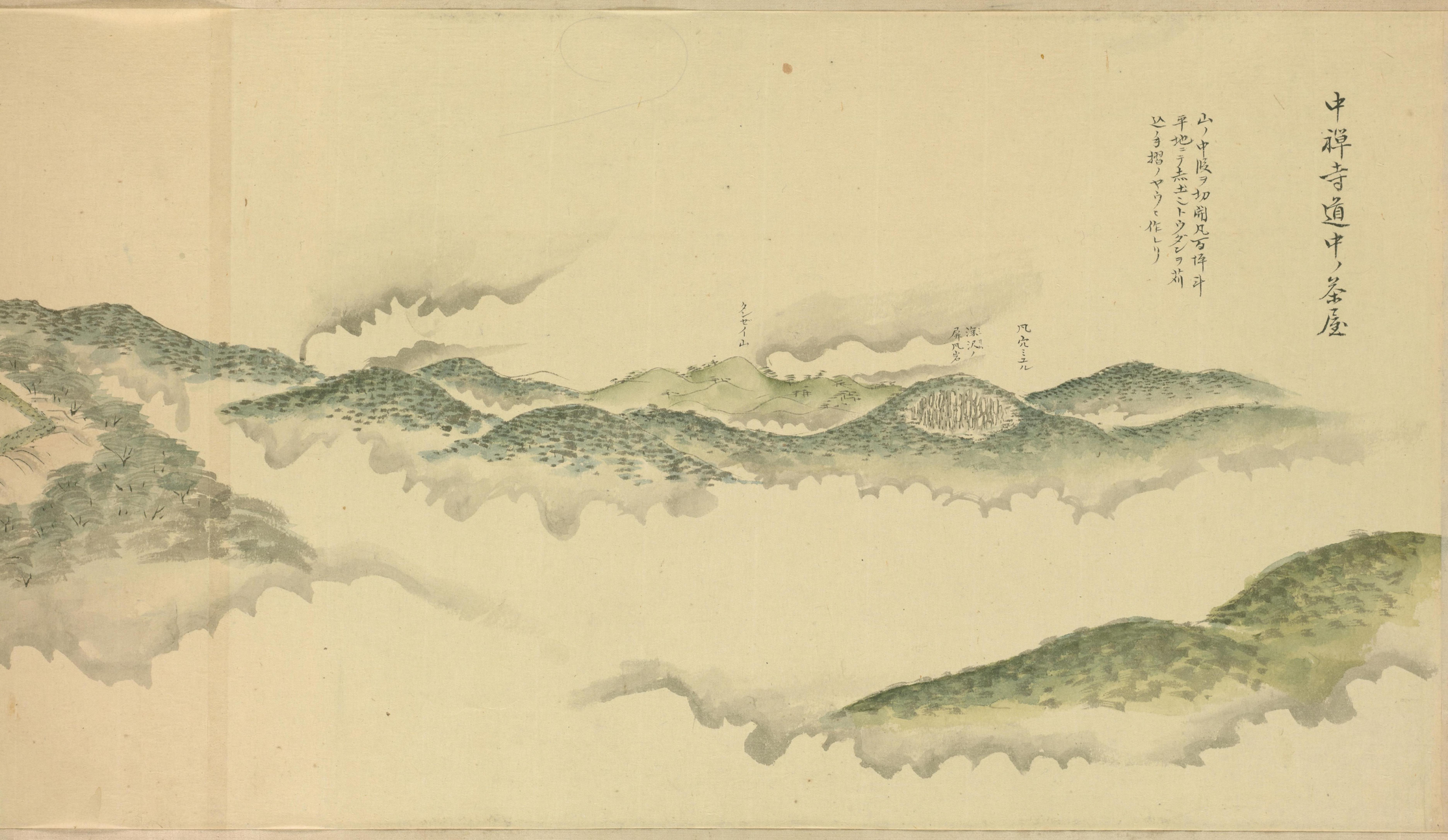
中禅寺道中ノ茶屋

夕日此赤壁、映し瀧へウツり返ヲ虹ノ形ノ如ヲナス案内者申タリ

国立国会図書館　タイトル『日光山図巻』　請求記号 特1-3280

中禅寺道中ノ茶屋

山ノ中腹ヲ切開凡百坪許
平地ニテ志ゼミトウダンヲ苅
込ミ招ノヤウニ作レリ



国立国会図書館　タイトル『日光山図巻』 請求記号 特1-3280

国立国会図書館　　タイトル『日光山図巻』　請求記号　特1-3280

般若瀧
橋ヨリ九四五
丁モアリ
方等ヨリ水

方等瀧
橋ヨリ九六丁モ
有ヘシ巌石赤キ
方アリ

国立国会図書館　　タイトル『日光山図巻』　請求記号　特1-3280

般若瀧
橋ヨリ九四五丁モアリ
方等ヨリ水勢大ク強シ
巌石黒シ

方等瀧
橋ヨリ九六丁モ有ヘシ巌石赤キ方アリ

劔ノ峯ノ橋ヨリ三瀧ヲ望

国立国会図書館　タイトル『日光山図巻』 請求記号 特1-3280

大平を七八町ばかり初て湖の端より玉る碧水

阿含ノ瀧

劔ノ峯ノ掛リ三瀧ヲ望

国立国会図書館　タイトル『日光山図巻』 請求記号 特1-3280

大平を七八町許すゝみて湖の端に至る碧水
渺湯として其限を知らず長三里幅一里余
あるよし云ふ深山より流れ出る大河ありて
おちたきつ流れ落る二三町許すゝみて中禅寺に至る
冠木門の入口より牛石と云ふ上に中禅寺の
龍宮造棟とをく建並べり夫より上に中禅寺の
ある若干不許火とをく桂古より絶ざる火あり此
変ずて三本の観音の等帳を包又壱丈六尺の大黒の等身の彫
像を安置す真言の観音堂あり開帳を拝す又六尺の毘
沙門像ありて勝道上人の作と自刻のよし補陀四天王の像を
安置す又ふたゝび二社権現の本社を拝す男體登山者
皆此男體を拝して此登り口より本社まで祝をさしたり
七月七日の潔斎勤行して登る境よりあしたり
七月七日に登るよし云ふ禅頂の杖の姓名をかく
帳しるを仰ぐに本をとをく建り凡禅頂の人数七月廿日
より二千六七百人ありと云ふ四千餘ありと云ふ
此登山者は帝代より霊場として佛勅事依重を得て不退
轉の地を占免殊勝なる絶倫なる前を流れ
流こゝに置塵なき胸なる浅き男躰の嶺
高く聳巻翠の色書塔に映帯しおのぼる
浮渭の心消滅しく拾四行に徹をとるべし
実に霊場の冠たるべし

中禅寺之図

男體山

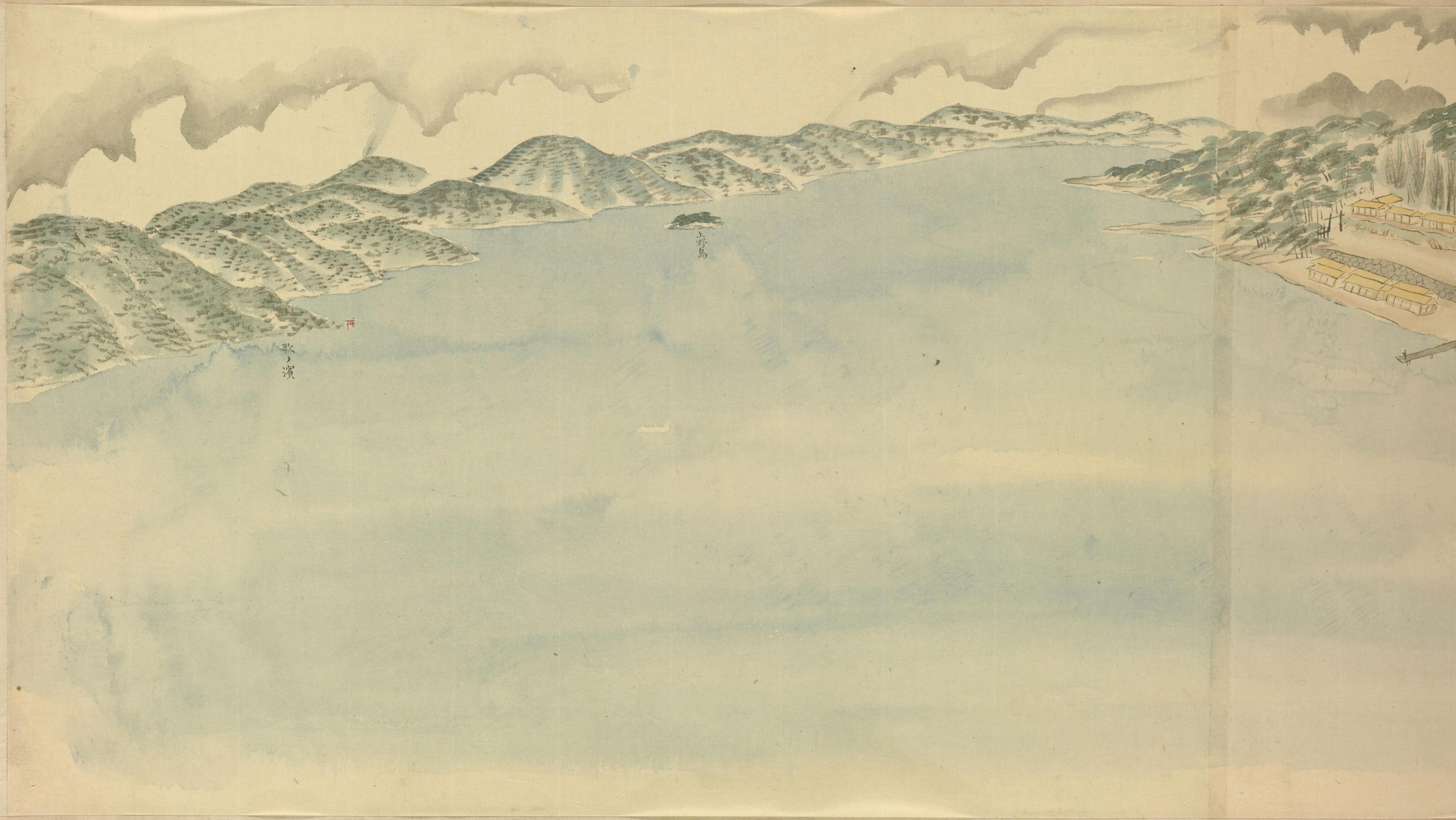
国立国会図書館　タイトル『日光山図巻』 請求記号 特1-3280

中禅寺之図

男體山

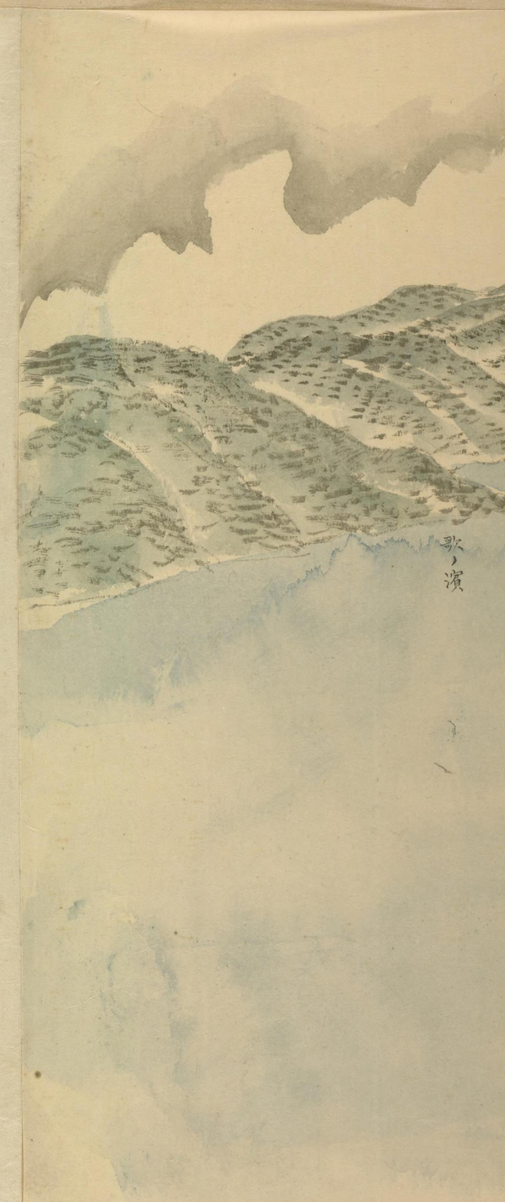
国立国会図書館　タイトル『日光山図巻』 請求記号 特1-3280

是より下山して前の茶屋まで昼の支度を調へ之より
道大平より右の方径路ありて入口より巫女石まで
凡そ三丁不足人の形に似たる石也夫より五六町行きて
華厳の滝布引の滝布引の四五十丈隔りて懸り唯



国立国会図書館　タイトル『日光山図巻』 請求記号 特1-3280

是より下山して前の茶屋にて昼の支度を調へ又
道大平より右の方径路あり入口より巫女石まで
三丁ばかり其巫女石の形ち石心夫より五六町行て
華嚴の滝布より落る四五十丈隔りて懸堆
木根草蘿を攀ぢ二十丈余下りて櫻の木の枯て
横りたふれ掛りたるを見る滝水溜りて雲霧のめぐりあるが
堵壁を廻り水煙をたて谷に響き大地動揺するが
山谷より百雷の轟と異らず暫く再顧をなす事
あたはず漸く危路を渡りて安平の里に
出る里数二十丁ばかりの平坦
なる野原を行一町余を隔て二三十丈ばかりの大平れば
滝布をうち仰ぎ見るに高さ凡そ二十丈ばかりの大平れば
茂しる瀧壺尺余にして底
還一歩る処に数百年の樹木枝よりサルヲガセなどの物懸垂生
生ずる草もなく苔もあらざる径一町の内に雲を突の嶺
生ずる物なきに日光より此深山に至るまで
皆ここの道のみ不動堂を磐り漸峻路をうち登り
本の茶屋に出る処にて勢く進軍し又下り
て深澤の茶屋にて昼の支度を調へ
又草を求めて此深山より出る迄の内疲労を休め
て深山より出る迄の内疲労を休め
又草を求めて此深山より出る迄の内疲労を休め
て深山より出る迄の内疲労を休め

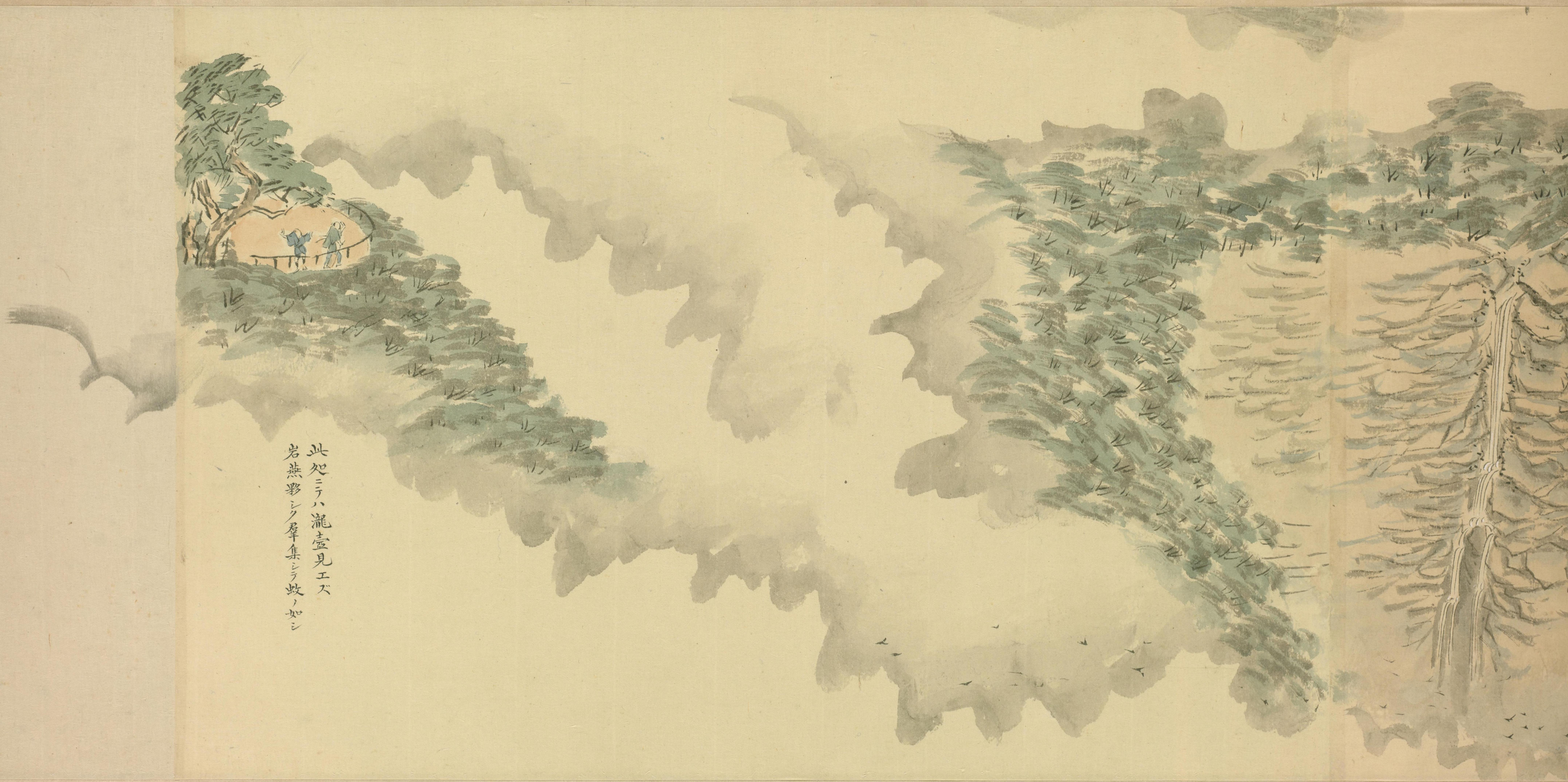


国立国会図書館　タイトル『日光山図巻』　請求記号 特1-3280

華嚴ノ瀑布

巖石疊々ノ帯イカニモ凄キ有様ナリ

国立国会図書館　タイトル『日光山図巻』 請求記号 特1-3280



此処ニテハ瀧壺見エズ
岩燕夥シク羣集シテ蚊ノ如シ

国立国会図書館　タイトル『日光山図巻』 請求記号 特1-3280

華厳瀑布壺ヲ見ル縮圖

瀧口ヨリ瀧壷ニテ高七十五丈有ヨシ

此処ニテハ瀧壷見エズ

岩燕夥シク羣集シテ蚊ノ如シ

国立国会図書館　タイトル『日光山図巻』　請求記号 特1-3280

華厳瀑布壹ヲ見ル縮圖
瀧口ヨリ瀧壹ニテ高七十五大有ヨシ

木根草蘿ヲ攀ヂテ華厳峡谷ヲ覗瀧壹ハ水煙玅乱シテ鮮ニ見ユ

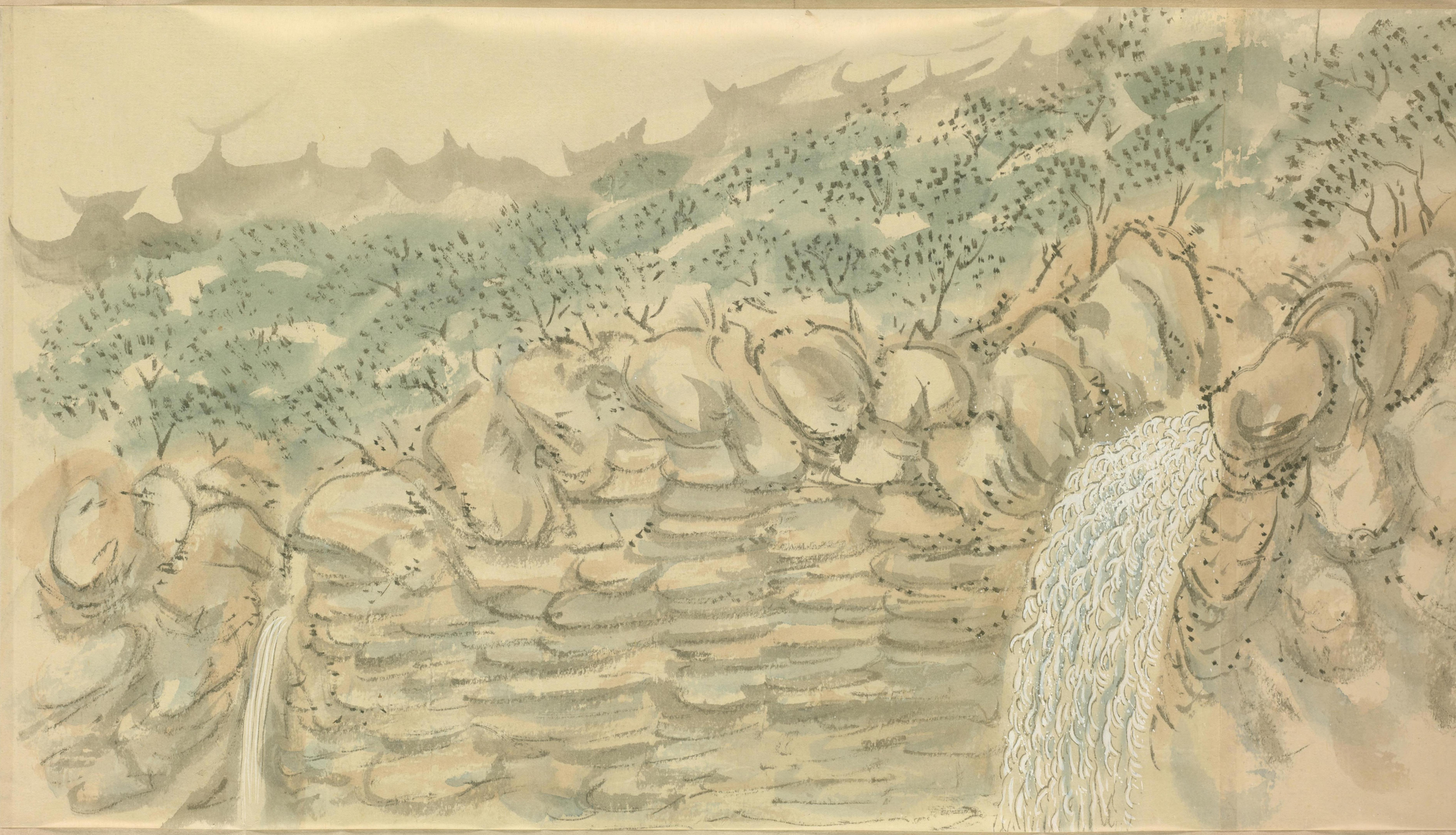
同圖

国立国会図書館　　タイトル『日光山図巻』　請求記号 特1-3280

本根亭羅、堆ウテ峯巒ト成ル、ヲ見ル六

図回

夫より賽の河原大谷川鹿柔橋を越字漸馬返よ
り男爵久保田氏別荘の前を通り安らうと此邊より多く
馬上の聲を聞り此邊より又夫より



国立国会図書館　タイトル『日光山図巻』 請求記号 特1-3280

清瀧權現

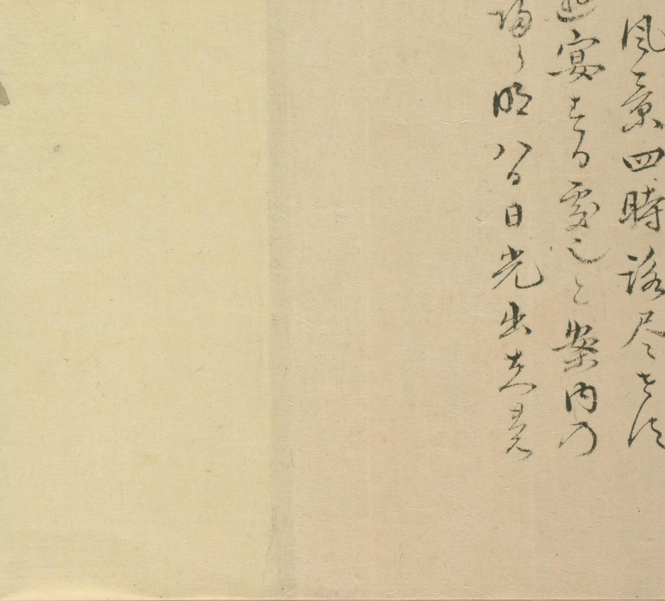
夫より實の河原大谷川鹿柔橋を越て漸馬返
着明夏より冬迄雪ふる事凡百日餘道路安しと
雖も往還多く屏を重ね此邊にて夫
より清瀧観音清瀧權現を拝此邊より滝を
いふ高さ凡拾餘丈絶壁を削りなしめて
數百條遙なり其大日堂を造り庭
池を已め池中に三ツ已の砂山清泉常に湧出
しる勾配下々大谷川向ふ頻伽山菩提山
そびえ行こと五里の地にまた梅櫻爛熳たる
年に夏ら笑者を避んとて麓に
清泉を汲しる失歩を意ふて
此八景より内ふる大谷川を照り波に光景得
いふ事なし雪ふる向の山くまた
強人参雲集り其四時詠尽きた
この中ふる夏ふる真ふ桜
ふるふるまで

国立国会図書館　タイトル『日光山図巻』 請求記号 特1-3280

大日堂

此池ノ藻ノ花
彩ニク咲ク如何
ニモ清涼ノ景
色ナリ

清瀧權現



国立国会図書館　タイトル『日光山図巻』 請求記号 特1-3280

菩提山

頻伽山

大日堂

大谷川

此池ノ蓮ノ花
盛ニ咲ク時如何
ニモ清涼ノ景色
ヲ呈ス

国立国会図書館　タイトル『日光山図巻』 請求記号 特1-3280

中巌之図

八日昨六時過日光出立して中岩と云ふ、
新石町を経過て入野道三里を経て
漸中岩と称する此地に着川を渡りて
巨巌を高さ二丈許り削り成せし
岐り又川の西端を断岸して二丈余りも有て
日光の地と云ふ予勢ふるが如く
うつくしき花も此辺に多く
咲ありて予仕事の須臾も
しる魚摩川の河原石おほく奈信河の景色にも
能似しる故に石目列たる景色いさゝか
摘貰さん只巌の奇絶を摘とる已に愛より
まねきを河原を経て予地と云ふ中岩の
下流に巌を凡二十間許高さ項上にて一丈もある
雲を衝ばかりに聳て上に松生茂り
又一つの此方を少し小一町許隔て鶏嶋と
云ふ巌有高さ二三丈ばかり一本松生茂り
風景可なり只人跡の絶たる事甚間果
花姫川のあさ汲て勢嶋の上にて弁当を喫たり
是より歩行渡りの川一二ツ越して立道と又廣き
又々森林の中を吟じ道をつたふ人家も稀なる大
雨たゞ潮ヲトロ澤と云ふ処へ出お庄の人家を見
出して夜ふけて着たる処初て着たる時ハ
夏なれ共立道一里余を行く潮ハ尚ほ大澤

国立国会図書館　タイトル『日光山図巻』 請求記号 特1-3280

中巌ミ図

用左ノ湖ヨトロ澤ト
出ル一夜ヲ宿ヲ乞ヒ
受ケ又五道一里余ヲ
乃至一ノ名勝

国立国会図書館　タイトル『日光山図巻』　請求記号 特1-3280

国立国会図書館　　タイトル『日光山図巻』　請求記号 特1-3280

鵜嶋

川下ノ

蘿巖

一軒茶屋アレ共
人不住

国立国会図書館　　タイトル『日光山図巻』　請求記号　特1-3280

国立国会図書館　タイトル『日光山図巻』 請求記号 特1-3280